

北海道区水産研究所運営会議報告

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 水産総合研究センター 公開日: 2024-07-09 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 平川, 和正 メールアドレス: 所属:
URL	https://fra.repo.nii.ac.jp/records/2009823

This work is licensed under a Creative Commons Attribution 4.0 International License.



トピックス

北海道区水産研究所運営会議報告

当所運営会議（テーマ：北水研における海洋環境研究）が開催され、地域水産業の振興に活かすための基礎的研究の役割と取り組み方法等について有益なご意見等を頂きました。



（亜寒帯海洋環境部長 平川和正）

【経緯・目的】

本会議は、これまでの各研究所の機関評価会議に替わり、平成18年度に新たに設置された会議です。その目的は、私達が現在取り組んでいる研究開発の中から重要な課題を取り上げ、その内容を体系的に筋道を立てて説明し、それをもとに研究開発の強化・効率化や、より現場のニーズに沿ったものに改善するための論議をして頂くことです。本年度は10月23日（会場：釧路全日空ホテル）に開催され、本会議委員8名を含む30名が出席しました。

【研究・事業活動の紹介】

①海洋環境と低次生態系（プランクトン生産と海洋環境との相互関係）のモニタリング（継続監視）：温暖化による親潮（本流）の春の植物プランクトン大発生への影響、沿岸親潮の季節的特性とその起源の特定、オホーツク海の植物プランクトン生産の季節的特性

②海況予報事業：東北海区海況予報への海況予測モデル（FRA-JCOPE）の導入による作業の効率化の推進と予報の説明に対する客観性の向上

③海況予測モデルの資源研究への活用：スケトウダラ太平洋系群の変動機構を解明するための一環として、モデルを利用したスケトウダラ卵・稚仔の輸送過程の再現



運営会議の様様

沿岸親潮とは？ 親潮本流よりも岸よりを流れる
低層流場分の水塊



図1 沿岸親潮の様子を示す模式図

【委員からのご意見等】

地元からの要望として、近年減少傾向にあるスケトウダラ太平洋系群の資源変動機構を明らかにするため、特に沿岸親潮（図1）の季節的変動とそれに伴うプランクトン（餌料）生産との関係やこれまでのスケトウダラ漁獲量と沿岸親潮の勢力との関係の解析等が挙げられました。また、低次生態系の研究では、基礎生産（植物プランクトン）が食物連鎖の頂点に立つ資源生物に達するまでには複雑なシステムが絡み合っていることから、私達の研究成果が生産現場にどのように貢献しているのか分かりづらい等、率直なご意見を頂きました。

【今後の対応】

研究者自身の日頃の努力による一般の人々（漁業者を含む）に目線を合わせた研究成果のPRの創意工夫とともに、応用研究のための海洋データの意義について他の研究部からもアピールする場の設定等、本会議の持ち方の改善を図る必要があります。また、道水試との役割分担と連携・協力の明確化については、実際に検討課題（例えば、スケトウダラ資源の変動要因等）を挙げ、現場レベルでの情報交換と課題解決のために各種研究会を活用し、そこで具体的に検討していきたいと考えています。